不定期刊行　　第410号　2011.09.21

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
池田工業高等学校

山一一80年の回想（古原和美著）出版記念祝賀会のお知らせ

御年 88、長山協の名誉会長の古原和美先生の名前をご存じの方は多いと思う。1964年の長野県山岳連盟（現長山協）のギャチュンカン遠征隊の隊長、1958年の深田久弥（日本百名山、ヒマラヤ登攀史などの著者）、風見武秀（山岳写真家）、山川勇一郎（山岳画家）とのジュガール及びランタンヒマールの探査を始めとする海外登山、医者としての高所医学の研究、草創期からの山岳協会の運営など長野県のみならず日本の登山をリードしてきた登山家である。1958 年の山旅をまとめた「ヒマラヤの旅」（理論社刊）は、産経児童出版文化賞を受賞するなど文筆家としても出色である。その古原先生が旧制中学（熊本済々黌時代）時代からの80年に及ぶその山人生の中で書きためてきた日記をはじめ随想、紀行、論考などを集大成したのがこの書である。

不肖私、実は古原先生のご子息とは小学校以来の同級生である。家も近いことから、長山協の仕事に関わるようになる以前から目をかけていただいていた。そんなこともあってか先日、ヤズィックアグルの登頂報告に伺った際に、これは「遺稿集だよ。君には進呈する。」といただいた。光栄の限りであるが・・・。

全460ページにも及ぶ大作である。まだ全部読み終えたわけではないが、先生の若い頃からのみずみずしい感性が伝わってくる。今なお「現役の山や」である先生の色々な顔が見えてくる。日本の登山史としても貴重な書だと思う。

この著作の出版を記念した祝賀会を10月15日土曜日に松本の東急インで行ないます。会費1万円、記念誌ならびに先生への記念品代込みです。ご出席を希望される方は、大西までご一報下さい。なお、祝賀会に出席できない方で、先生への著作を希望し祝意をお持ちの方は、4000円でお受けします。10月5日までにお申し込みください。

ヤズィックアグルの蒼い空 6　　キャラバン・・・砂塵との戦い2

その先も至るところで道路工事が行なわれており、ダートなのでタクラマカン砂漠から飛んできた細かい砂塵が窓を閉めている車の中にも情け容赦なく入ってきて出て行かない。窓は開ければ開けたでこれまた埃との戦い。そんな砂埃を避けるために窓を開けたり閉めたりしながら、20:00 にマザーに到着。ここマザーは軍隊の駐屯地であるが、チベットへ続く道とカラコルム（世界で2番目に高いK２のある山脈）への道の分岐点でもあり、夏場だけこの道を通行するトラックなどのための食堂や木賃宿（まさにそう呼ぶに相応しい）が数軒営業している。我々は「山や」である。ここにあるのは文字通り木賃宿なので、そこに泊まるよりはテントの方がまし。そんなわけでテントを張って泊まることにした。マザーの標高は富士山の標高とほぼ同じ 3800m。キャラバン初日からいきなりこの高さでのキャンプ。昨年は、この場所まで来て、急にこの先通行止めという情報を得て、やむなく偵察を断念したのだった。しかし、今年は目の前を流れるヤルカンド河の流れもずっと穏やかで、道路が決壊しているという情報もない。ここまで来て初めて情報が得られるというのも、日本では考えられないことだが、まずは一安心

である。そんな中、調子を崩している山内君の具合が気になる。

白き峰ヤズィックアグル　1

7月22日　朝起きると曇り。高度障害も殆ど感ずることがなく、夜も3回トイレに起きた。本来なら一昨年見ていたはずの「ヤズィックアグル」にやっと会える日が来た。ヌルさんが作ってくれた朝食のおかゆを食べ、10:00に出発。ここからBC予定地まではおよそ250km。昨日順応に苦しんでいた山内君の様子も改善気味。なんとか全員でBC入りできそうである。ここから先も新しい道を建設中で、昨年までの道と新しく造られたた道が2本併走している。さらに随所に迂回路も造られており、この計画には莫大な金と人がつぎ込まれていることが知れる。11:40 ヘイカ峠（4830m）への登り口で休憩。ここまではヤルカンド河を右手に見ながらの遡上だが、水量は昨年と比べれば全く少ない。やはり昨年は異常気象だったのだろう。・・・しかし、仮にそうだったとしても、重機と人を大量につぎ込んだこの大規模な道路改修工事が昨年行なわれていたならば、道はすぐに復旧したろうに・・・。まあそういう意味では、今年は入るに当たっては不都合を強いられたものの、どんなことがあっても「入れない、閉じ込められる、出られない」ということはないだろう。大きな安心を手に入れて入っていくと思えば、道路工事の不便さにも感謝せねばなるまい。

2011中信新人大会・・・やや辛口の講評

９月１６日から１７日に中信高体連の新人大会を行なった。今年の会場は乗鞍高原と乗鞍岳。今年度は男子が７校１７チーム３５名、女子が２校２チーム４名（内１チームはオブ）の参加を得た。初日の競技は、天候にも恵まれて気持ちのいい状況下、一ノ瀬キャンプ場をＳＧに、池あり、滝ありの変化に富んだコースでのラインとポイントの併用形式のオリエンテーリングを行なった。

大会結果については、やはり日頃のトレーニングの結果が如実に表れていたように思う。優勝した県ヶ丘Ａチームは得点が１００点、２位の深志Ａが９８点とこの２チームが圧倒的な強さを見せた。この２チームは、読図はもちろん設問に対する解答も正確で、体力的にも申し分なかった。体力的には４チームが規定時間内にゴールしたが、中にはポイントを捨てても時間内にゴールし体力点で稼ごうというチームがあったのは残念であった。意図的とは考えたくないが、今年は特にポイントを取らずに（取れずか？）ゴールしたチームが全１８チーム中１４チームと極端に多かったので、１ポイント取れないごとに２点の減点をした。ポイントを取れなかったチームは、今後の各校の山行の中で、常に地図を携行し、現在地の確認と次に表れる地形や人工物などの予測をしながら登る、また記録をとりながら登るという登山を心がけてほしいと思った。

また、１チームルール違反（携帯電話の使用）があり減点をした。実際にはそれによって不正を行なったわけではなく、ゴール間際ではぐれてしまった友人を呼ぶのに携帯を使ったというものだが、そもそもチーム一体で動くことをしなかったということが問題である。仲間が遅いからと自分だけ先行するようなことは登山のイロハを逸脱した行為である。これからの登山活動の中では注意してほしいという警告の意味で減点した。ともあれ今回は新人戦である。今後十分に山行を重ねる中で、来年の県大会では、一回り大きくなった姿を見せてほしいものだと思った。